

文化財展示への応用と国際展開

福永香 津川卓也 岩城邦典 扇慎太郎
(国立研究開発法人情報通信研究機構)

情報通信研究機構電磁波研究所では電磁波センシング技術を文化財の科学調査に応用し、得られたデータをデジタルミュージアムコンテンツに活用するプロジェクトを実施している。主に欧州各国と協力しており、今年は Dagik Earth を用いた芸術的作品のデジタル展示を試みるとともに、フランス・ドイツの日本人学校に紹介し、現地での理科教育に活用された。

文化財として価値のある地球儀・天球儀を映してみる (デジタルミュージアム)

大日本印刷株式会社 (DNP) が 3次元デジタル化した、フランス国立図書館 (BnF) 所蔵の歴史的な地球儀・天球儀、55 作品に関する企画展 Globes in Motion が 2016 年に開催された。3次元デジタルデータは、プラネタリウムや Dagik Earth のコンテンツとして活用でき、今年の 10 月には京都で開催された DNP 主催の日仏交流文化体験イベント「時の響き」において、2m パルーンを用いた展示を行い、好評を博した。



時の響き 2018 での展示



Jodocus Hondiusにより1600年頃に作られた天球儀(直径42cm, 紙製)はVermeerの油絵「天文学者(1688年頃)」にも描かれている。



Louvre Abu Dhabi で展示したい。

BnFの常設展示に使ってもらいたい!

本物は場所や安全上の問題から全てを常設展示はできないが、デジタル展示なら可能。



半球の支持体として使ってみる (新しい絵画表現)

平面のデータしかない作品を画像変換ソフト (DEMIC) で変換して映した。曲率のある面上に描かれた作品は、より本物に近い展示ができる。また、平面円形に描かれた作品でも、Dagik Earth 上の方が魅力的に見えるものもある。今後、Visual artists にも使ってもらいたい。



修復中
Caravaggioの作品, "Medusa"(1596-1597年, 油彩・板絵)は「盾」の収集家の依頼で描かれた。



展示替え中
Michelangeloの作品, "Tondo Doni"(1507年頃, テンペラ・板絵)のような構図は魅力が増す可能性もある。



欧州各国大使館イベントでの展示 パリ・フランクフルト日本人学校での活用

各国大使館での天皇誕生日祝賀レセプションでの宇宙天気予報技術の紹介に活用し、極めて高い展示効果を得られた。

また、パリ日本人学校(小学部及び中学部合わせて200名程度が在籍)に2m パルーン, プロアを貸与し授業に活用されている。とても好評であり、フランクフルト日本人学校でも活用されはじめた。また、中学生が小学生に天体・地球を説明する自己学習や学年間交流にも役立てられている。今後「教育用コンテンツ」の充実が望まれる。



Budapestの王宮を背景に。



パリ日本人学校の授業

お問い合わせ: 情報通信研究機構 電磁波研究所 福永 (kaori@nict.go.jp)

